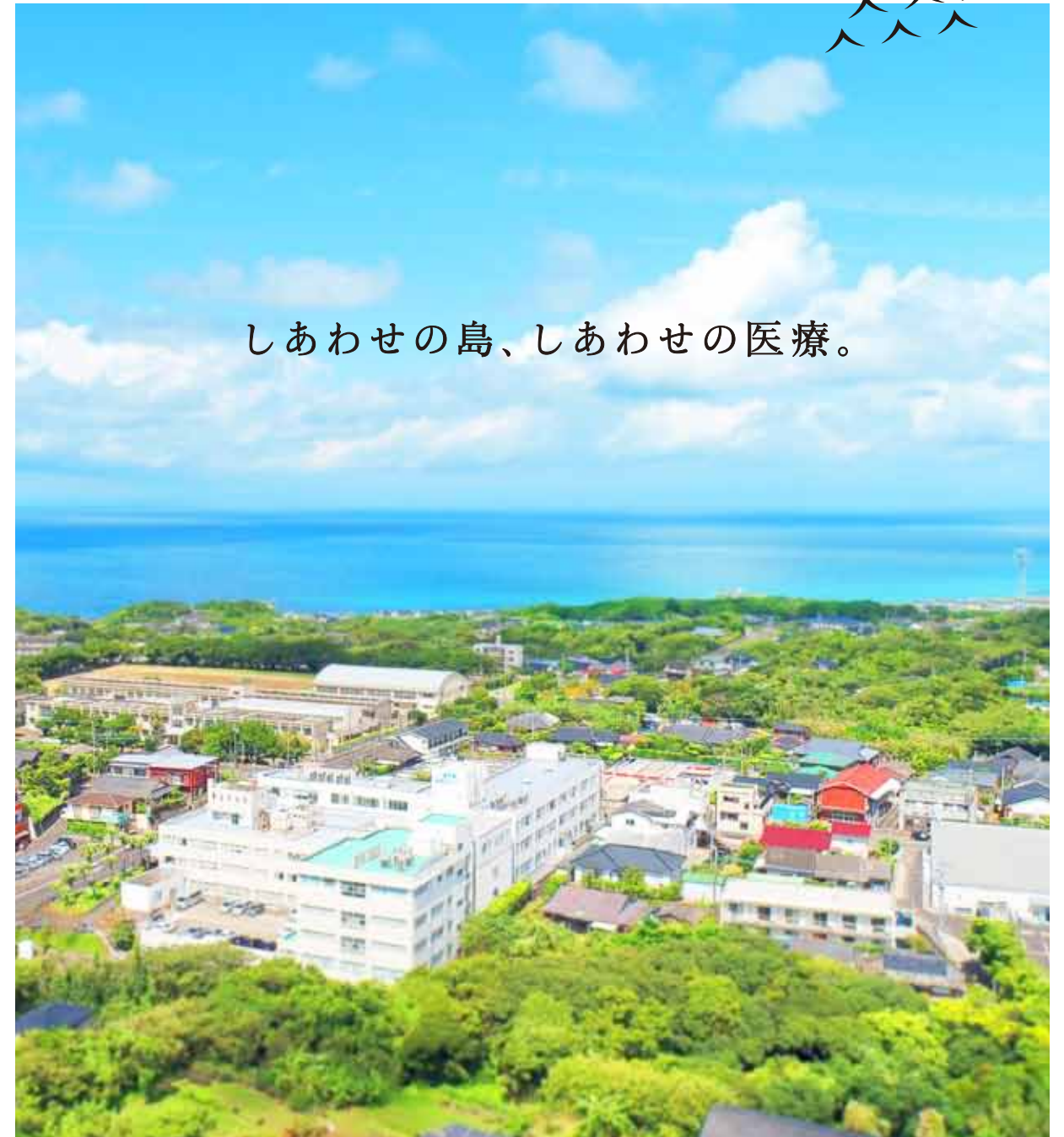


HAPPY ISLAND, HAPPY HEALTHCARE.



しあわせの島、しあわせの医療。



種子島医療センター



TANEGASHIMA
MEDICAL CENTER



“しあわせの島、しあわせの医療”宣言。

HAPPY ISLAND, HAPPY HEALTHCARE.

幸福な時を刻む島、種子島。
エメラルドグリーンの海に囲まれた、
この美しい島をときりしあわせな場所にしたい。
そのためのプロジェクトがひとつずつ始まっています。

「田上容正内科」からスタートした
社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センターもまた、
「島民の命を守る」という使命から
「島民のしあわせを守る」医療へと変化してきました。

離島では十分な医療が受けられない。そうした偏見を取り払うべく、
50年の歳月をかけて医療環境を整え、
種子島のライフラインを担ってきたと自負しています。

けれど、しあわせを守るには、それだけでは足りません。
患者さんにしっかりと寄り添い、支えることがなによりも大切です。

種子島医療センターでは、専門性を持つ多職種がワンチームとなり、
地域とも連携をとり合いながら、みんなで見守る“島内完結の医療”を推し進めています。

それを可能にしているのが、個性あふれるスタッフたち。
職員の半数以上は島外からの移住者で、出身地も職種の垣根もなく働いています。

違う価値観を受け入れる、その多様性こそが私たちの大きな強みです。
同じなのは「すべての島民を笑顔に」するために力をつくすこと。
その気持ちがあれば、できないことは何一つありません。

種子島の医療はこれからも時代を受け入れ、進化していく。
私たちは心をひとつに“しあわせの島、しあわせの医療”を目指します。



種子島で豊かに働く、暮らす。

TANEGASHIMA MEDICAL CENTER



「しあわせの医療」を支える6つの柱

「しあわせの島」を守る、その一念で種子島に必要な医療をひとつずつ積み重ねてきました。種子島医療センターはこれからも長年かけて取り組んできた6つの柱で、「しあわせの医療」を支えます。

HAPPY HEALTHCARE 01

島内完結の医療を支える
「高度医療の推進・救急医療」

»P.06



HAPPY HEALTHCARE 02

365日安心を支える
「リハビリテーションの実践」

»P.10



HAPPY HEALTHCARE 03

地域連携で支える
「高齢者医療」

»P.14



病院機能評価認定病院として“信頼される病院、誇りとされる病院”へ

信頼される病院として医療の質の向上を目指すため、第三者機関である日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審。二次医療圏等の比較的広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院を対象とする一般病院2(「機能種別版評価項目3rdG:Ver.2.0」)の基準に達しているとして、2019年5月に認定病院として認められました。さらに熊毛医療圏の地域中核病院としての責任を果たすべく、他にもさまざまな病院機能を担っています。

【公的認定、病院機能】
日本医療機能評価機構認定病院/新型コロナウイルス感染症重点医療機関/二次救急指定病院/JAXA救急指定病院/災害拠点病院/地域がん診療病院/へき地医療拠点病院/DMAT指定病院/DPC対象病院/原子力災害医療協力機関/エイズ治療・協力病院/SARS受入医療機関/難病医療指定協力医療機関/特定健診委託医療機関/結核予防法指定病院/結核ハイリスク者健診事業受託医療機関/人間ドック契約病院/ATL検査委託実施医療機関/肝炎診療専門医療機関/消化器がん検診精密検査実施協力機関/大腸がん検診精密検査実施協力医療機関/肺がん検診精密検査実施協力医療機関/乳がん検診業務委託医療機関/石綿・じん肺検診委託医療機関/予防接種相互乗り入れ医療機関/日本整形外科学会認定研修施設/日本麻酔学会麻酔科認定病院/臨床研修関連病院/日本外科学会外科専門医制度関連施設/日本消化器内視鏡学会指導施設/日本病院会病院総合医育成プログラム認定施設

HAPPY HEALTHCARE 04

笑顔を支える
「離島看護の精神」

»P.18



HAPPY HEALTHCARE 05

未来を支える
「小児医療、予防医療の取り組み」

»P.22



HAPPY HEALTHCARE 06

しあわせを支える
「ワーク・ライフ・バランスの奨励」

»P.24



島内完結の医療を支える 「高度医療の推進・救急医療」



離島には医療資源が少なく、提供できる医療が限られています。そのため、住民が十分な医療を受けるには島外に出向く必要がありました。だれもが当たり前前に受けられる格差のない医療を、ここ種子島で受けられるよう、種子島医療センターはほとんどの診療科を設置。種子島でのしあわせな暮らしを守る「島内完結の医療」を目指し、質の高い高度な医療、いつでもすべての人を受け入れる救急医療に取り組んでいます。



内科、外科の協働体制で医療を提供

私たちが目指す質の高い高度な医療とは、患者さんに寄り添う全人的な医療のこと。プライマリ・ケアの導入や内科と外科の垣根をなくし協働することで、円滑で正確な診察、検査、診断、治療を行う体制を整えています。また、他職種とも密に連携を取り、外来から入院まで患者さんが安心して受けられる医療を提供しています。



新しい離島医療を目指し、高度医療を推進

島内ですべての医療を可能にする高度医療も導入しています。例えば、腹腔鏡下手術などの患者さんの負担が少ない低侵襲治療を取り入れているほか、地域がん診療病院として内視鏡検査やCT検査によるがんの早期発見、新しいがん化学療法や緩和ケアに取り組み、離島医療の理想モデルとなる体制づくりを進めています。

高度医療を支える最新機器、システムを導入

島内で迅速かつ高度な医療を提供するには最新の設備も欠かせません。最新型のCT(320列)、MRI(1.5テスラ)、血液造影装置、超音波画像診断装置、全自動生化学検査機器などを揃え、的確でスピーディな診断を行っています。平成16年に電子カルテを導入するなど、最新システムも積極的に取り入れています。



320列CT 「Aquilion ONE」

世界一広範囲の撮影が可能な320列面検出器を搭載した最新鋭CT装置。従来のマルチスライスCT装置に比べ、より精密に短時間で検査でき、被ばく線量の低減にもつながります。



これらの高度医療機器のほか、血管造影装置や検体検査システムなどの最新の設備を揃えています。



1.5テスラMRI

高性能のMRI装置。磁場と電波を使って様々な角度から体の断面を細かく撮影するため、造影剤の使用も被ばくの心配もなく、低侵襲で安全な検査が可能です。

大学病院等との連携で、 万全な診療体制づくり

島外の医療機関と連携を取り、万全な診療体制を整えています。なかでも鹿児島大学病院との強固な医療連携により、脳神経外科をはじめとする高度な医療、呼吸器内科、皮膚科、泌尿器科といった専門外来など診療科の充実を図っているほか、各種研究や研修なども行い、最先端の医療技術の導入と技術向上にも取り組んでいます。



救急医療で24時間、 島のライフラインを守る

種子島の二次救急指定病院としてすべての救急患者を24時間365日体制で受け入れ、断らない医療を実現しています。さらに鹿児島市の連携病院へドクターヘリで搬送するネットワークを構築。対応が困難な重症患者、特殊救急疾患の患者が発生した場合に備え、迅速安全に搬送する体制も整えています。

DMAT (災害派遣医療チーム)



災害拠点病院としての役割を果たすため、2014年3月にDMAT隊を結成。隊員は医師2名、看護師4名、業務調整員1名で構成され、災害を想定した訓練を定期的に行っています。2016年4月16日に熊本地震が発生した際は、種子島医療センターから支援物資と共にDMAT隊を派遣しました。

《診療科目》 26の診療科目を備え、より質の高い医療を提供するため、診察サポート部門と密に連携を取りながらチーム医療を行っています。

内科・総合診療科	循環器内科	消化器内科	脳神経内科
心療内科	呼吸器内科	血液内科	糖尿病内科
肝臓内科	腎臓内科	ペインクリニック内科	外科
整形外科	消化器外科	肝臓・胆のう・膵臓外科	乳腺・甲状腺外科
脳神経外科	麻酔科	小児科	眼科
リハビリテーション科	耳鼻咽喉科	皮膚科	泌尿器科
放射線科	リウマチ科		

《診療サポート部門》 9つの診療サポート部門が連携し支え合いながら、質の高い離島医療を守っています。



CLOSEUP

臨床工学室

日々進歩する幅広い医療に対応するため、種子島医療センターには現在7名の臨床工学技士(ME)が常勤しています。



MEは医療機器の専門家として、生命維持管理装置(人工呼吸器、人工透析装置など)といった医療機器を操作する臨床支援業務を行うほか、医療機器の保守点検などの医療機器安全管理業務にあたっています。医療機器中央管理室をはじめ、手術室、透析室、内視鏡室において、医師や看護師、他の医療技術者と密に連携を取り、チーム医療の一員として24時間体制で対応し、安全で質の高い医療サービスの提供に努めています。

365日安心を支える 「リハビリテーションの実践」



「リハビリテーションセンター」を併設し、リハビリテーションの機能回復効果を最大限に生かすことも大きな特徴です。病気や怪我で後遺症を患ったとしても、1日でも早く元の生活に戻り、住みなれた場所でその人らしく生活できるように、各専門職がチームとなって一貫した支援をするトータルリハビリテーションを行っています。退院後は、院外の機関や施設と連携し、状況に応じたリハビリテーションで患者さんを支えます。



チーム医療で支える積極的なリハビリテーション

超急性期のできるだけ早い段階から取り入れ、365日対応する積極的なリハビリテーションを行っています。2006年(平成18年)には、急性期の治療を終えた患者さんのADLや認知機能の改善、社会生活への復帰のためのリハビリテーションを専門に行う「回復期リハビリテーション病棟」(48床)を設置。医師、看護師、管理栄養士、ソーシャルワーカーら専門スタッフとワンチームとなって、診療、手術、入院、在宅復帰まで、スムーズなリハビリテーションを実施。当センターは「地域リハビリテーション広域支援センター」としての役割も担っています。



新しい技術を積極的に導入

疾患・症状に対応した専門性の高いリハビリテーション

脳血管障害、運動器のリハビリテーションを中心に、呼吸器疾患、廃用症候群、摂食嚥下障害、脳性麻痺などの様々な障害、さらにはがんまで、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の高い専門性を活かし、それぞれの疾患や症状に対応したリハビリテーションを提供しています。治療対象となる患者さんは年間延べ85,000件に上り、入院から外来、在宅まで年代も0歳のお子さんから超高齢者まで幅広く対応します。

リハビリテーションの高次脳機能障害、発達障害への成果もめざましく、高齢者医療、小児医療への貢献も期待されています。当センターでは、脳卒中の後遺症に有効な促進回復療法「川平法」もいち早く導入し、川平和美先生に直接指導していただくなど、最新のリハビリテーション手技や機器を積極的に取り入れ、種子島で最新のリハビリテーション医療が受けられるように取り組んでいます。



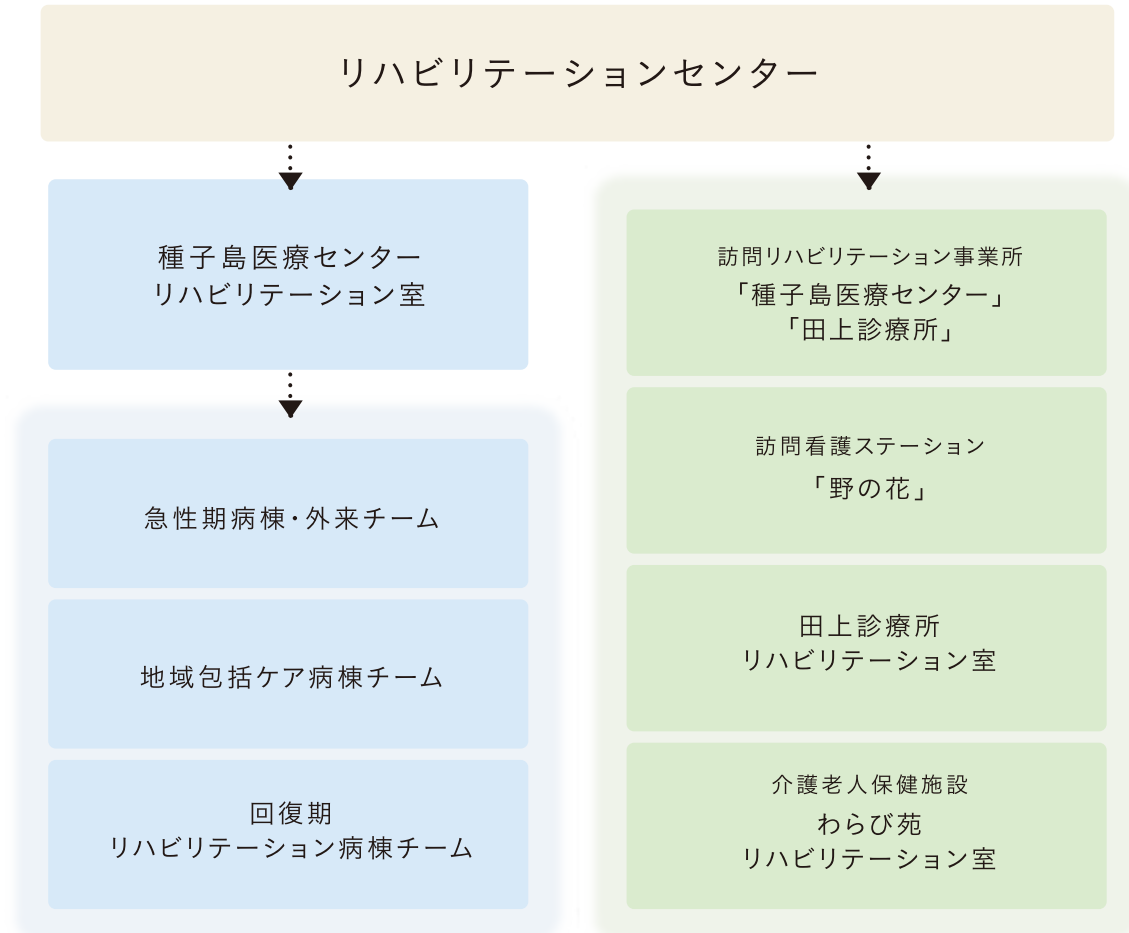
トータルリハビリテーションを 地域連携で継続

リハビリテーションの効果を高めるには、退院後自宅に戻っても機能を回復、保持するために継続的なリハビリ支援が欠かせません。当センターでは、地域の医療施設や介護福祉施設とも連携をとり、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを行い、患者さんに合わせたトータルリハビリテーションを継続的に支援しています。

「熊毛高齢者保健福祉圏域 地域リハビリテーション 広域支援センター」

熊毛圏域のリハビリテーションの中核となる機関として、2004年に鹿児島県より地域リハビリテーション広域支援センターに指定されました。リハビリテーション、福祉用具、住宅改修といった地域住民からの相談対応、リハビリテーション施設や従事者にリハビリテーション技術や研修会をサポートするなど、様々な支援を行っています。

〈リハビリテーション組織図〉



リハビリテーションセンターは、病院の「回復期リハビリテーション病棟」、「地域包括ケア病棟」でのリハビリテーション、外来リハビリテーションによって、寝たきりの防止、社会や家庭への復帰をサポート。さらに田上診療所、訪問リハビリテーション事業所、訪問看護ステーション「野の花」、介護老人保健施設「わらび苑」に療法士を配置し、通所および訪問リハビリテーションを実施。入院から在宅まで途切れることなく、一貫したリハビリテーションをスムーズに提供する体制を整えています。



訪問リハビリテーション事業所
訪問看護ステーション 野の花

看護やリハビリの必要な方のご自宅へ看護師や療法士が訪問し、療養生活の支援や介護を手助けし、安心して暮らせるお手伝いをしています。

西之表市西之表7463番地 管理棟
Tel 0997-22-2880



介護老人保健施設 わらび苑

入所サービス、短期入所ショートステイ、通所リハビリテーションを提供し、質の高い自立を支援するための介護サービスを行っています。

西之表市西之表2981-1
Tel 0997-22-2600



田上診療所

内科、循環器内科、皮膚科、小児科、整形外科、泌尿器科の診療のほか、通所・訪問リハビリを行っています。

中種子町野間5306-11
Tel 0997-27-0325

地域連携で支える 「高齢者医療」



高齢になっても住み慣れた場所で安心して暮らすには、自分たちが必要な時に必要な医療を選べる環境と、1日でも長く生活者としてその人らしく過ごせる生活を保つことが大切です。種子島医療センターの高齢者医療は、そのための環境づくりを目指し、院内だけでなく地域の機関や施設と協力して医療を行う「地域医療連携」、「へき地医療」を実践。地域の人々が一体となって高齢者に優しく寄り添い、健康寿命を守る体制を整えています。

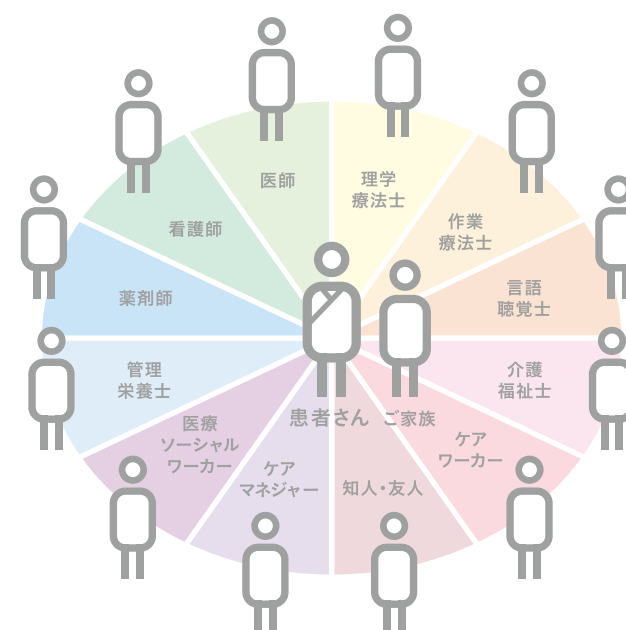


高齢者に積極的な診断、治療を実施

高齢の患者さんをひとりでも多く、もとの生活に復帰させることが、しあわせな暮らしを保つ健康寿命を守ります。循環器内科、消化器内科、整形外科、外科では、患者さんへの負担の少ない低侵襲治療を取り入れ、80～90歳の高齢者に対しても積極的に検査、手術、治療を実施し、高齢者の社会復帰に貢献しています。

ADLの向上、社会復帰をチームでサポート

医師の指導のもと、多くの専門スタッフがチームとなって日常生活動作（ADL）の向上に努め、寝たきり防止、社会復帰の支援を行っています。リハビリテーションは早い段階から継続的に取り入れ、病院食についても管理栄養士と協力し、看護師や言語聴覚士による口腔ケア、摂食・嚥下機能評価などにも力を入れています。



〈高齢者へのサポート体制〉

医師、看護師、薬剤師、療法士、管理栄養士、介護福祉士、ケアワーカー、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、知人・友人がチームを組み、患者さんのADLの向上、社会復帰そしてご家族をサポートします。



地域医療連携で 一貫した在宅医療を提供

種子島医療センターでは、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションを行い、在宅医療の充実にも取り組んでいます。地域の機関や介護福祉施設などと連携しながら、退院後の在宅療養や地域で暮らす高齢者の健康をサポート。退院後も連携の取れた一貫した医療サービス、スムーズな在宅医療を提供しています。



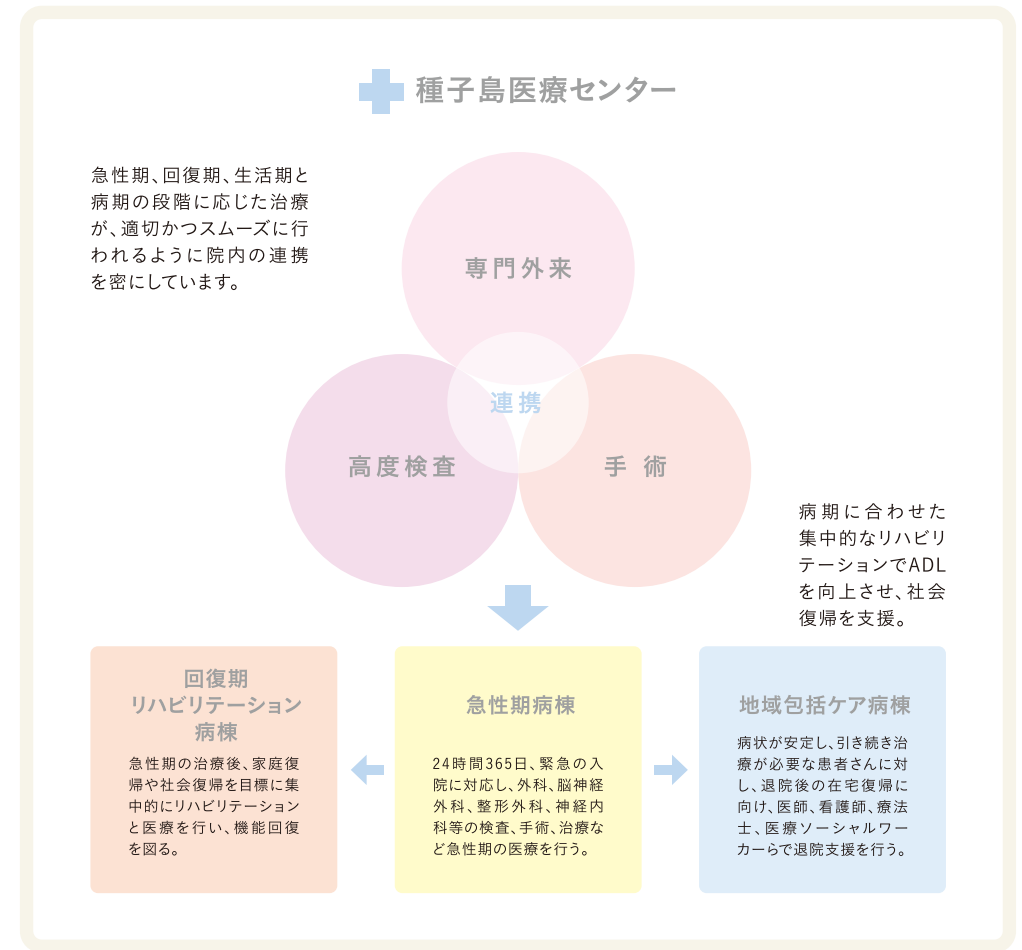
すべての人に医療を届ける へき地医療センター

すべての島民に安心の医療を提供することは社会医療法人の社会的使命として、平成26年11月にへき地医療拠点病院の指定を受けました。オープンシステムのバックアップ体制のもと、島で唯一の産婦人科診療所「種子島産婦人科医院」や屋久島の「栗生診療所」に継続的に医師を派遣。診療を始め、技術指導、援助、支援を行うなど、地域医療、高齢者医療を支えています。

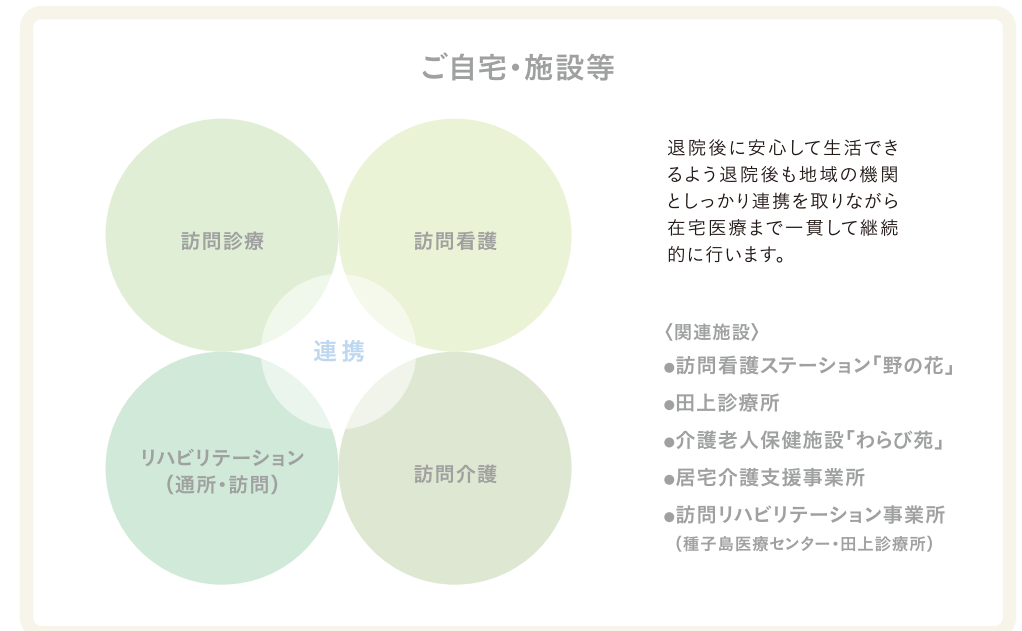


「地域医療連携室」

医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）が常駐し、患者さんの入院生活や退院後の生活のさまざまな不安を解決するお手伝いをします。介護保険の申請やサービスの利用、施設の入所手続き、他院へあるいは他院からの転院など、各種手続きや相談に応じます。さらに「がん相談支援センター」を併設し、がんに関するさまざまな相談に応じ、患者さんとご家族に対し、心のケア、社会的な支援も行っています。



↓ 退院



笑顔を支える 「離島看護の精神」



離島医療を支えるには、ライフステージに応じた幅広い看護の知識と高い技術、外来から在宅まで途切れることのない看護体制が必要です。それには、島内完結の医療を支える看護への向上心と、島民が笑顔で暮らせる「しあわせの医療」の実現に向かう強い気持ちが求められます。離島だからできないではなく、一丸となって取り組むのが当センターの離島看護であり、その精神は創業からずっと変わらず受け継がれています。



外来、入院、在宅まで 一貫した看護体制

医療が細分化されている都市部や大きな病院では、急性期から生活期までの看護も分断されがちです。私たちが大切にする離島看護では、外来・入院はもとより訪問看護ともしっかりと連携し、生活期まで一貫した看護体制が基本。切れ目のない看護によって退院後もご本人もご家族も安心して過ごせる医療環境を提供しています。

地域の特性に応じた 幅広い看護

当院が島内で初の人工透析を開始した昭和55年以降、高齢化率の上昇にともない透析導入の患者は増加しています。離島看護では透析看護のような専門技術はもとより、地域の特性を理解し、総合的な視点で看護をすることが重要です。小さな子供から高齢者まで幅広い疾患に対応できる看護体制を整え、全人的医療に配慮したケアに努めています。

家族の視点に立った 優しい看護

助け合いの精神が強い地域性もあり、看護師と患者さんが親しい種子島では、患者さんのバックグラウンドや状況を把握しやすく、寄り添った看護ができるのも当センターの強みです。病院には親子や兄弟姉妹、夫婦で勤務する職員も増えており、家族の視点に立った優しい看護が自然と根付いています。



研鑽を重ね、質の高い看護を提供

安心して治療を受け療養していただくには、看護の高い知識と技術が必要です。現場で築き上げてきた知識と技術を確かなものにするために、定期的に研修会や勉強会を行う他、認定看護師資格取得や特定行為研修受講を積極的に支援。それぞれの場面で認定看護師や特定行為看護師、内視鏡技師等看護のスペシャリスト達が大いに活躍しています。

STAFF VOICE

離島看護は看護師にとっても魅力的です。

離島看護は患者さんに優しいだけではありません。当センターのスタッフに、看護師にとっての魅力を知りました。



「地域特有の幅広い疾患、外来から在宅まで一貫して携われるので、かけがえのない経験ができます」

「専門的な看護だけでなく、総合的な看護の重要性を学ぶことができます」

「患者さんと密に関わるため、自分が必要とされていると実感でき、やりがいや達成感を感じることができます」

「将来のキャリア形成に活かせる、オールマイティな能力を養うことができます」

「患者さんもスタッフも優しく、家族のような温かい環境で仕事ができます」



〈当センターの実績〉

外来患者数



1日
360人
〜
400人

入院患者数



1日
180人
〜
200人

手術件数



年間
約1,000件

全身麻酔例
年間
約300件

救急外来受診



年間
3,500〜4,000件



救急車搬入
年間
約1,200件



ヘリ搬送
年間
50〜60件

〈当センター 離島看護の労働状況〉

時間外労働

月平均
2.7時間

年次休暇取得日数

平均
8.3日

産休及び育休
取得者数

年間 10人
(男性2人)

離職率

9.7%

在職期間

平均
11.9年

(2020年度看護部データより)

未来を支える 「小児医療、予防医療の取り組み」



安心して子どもを育てられる環境を整えること、病気を予防することもまた、「しあわせの医療」には欠かせません。種子島医療センターでは、子どもの未来を支える小児医療にも力を入れ、一般診療、健診、予防接種はもとより、「発達外来」、「小児リハビリテーション」にも力を入れ、心身の発達や療育、育児を総合的にサポート。また、高度な医療機器を用いた健診や人間ドックで、健康寿命を延ばす「予防医療」にも取り組んでいます。



小児疾患に特化した 小児科専門医が常駐

種子島では唯一の日本小児科学会認定小児科専門医が常勤し、診療にあたっています。健診や予防接種、一般的な疾患から小児アレルギー疾患、発達障害などの専門疾患まで対応。リハビリテーションセンターと連携し、発達障害の治療に有効な「小児リハビリテーション」を行い、新しい小児医療にも積極的に取り組んでいます。



種子島の子育てを 医療面からサポート

お母さんが安心して育児ができるよう、子育てを医療で支えていくのも小児医療の務めです。当院は種子島産婦人科医院と協同して周産期医療の充実にも取り組んでいるほか、その一環として当院の岩元二郎小児科部長が発起人となって結成した、医療・保健・教育・福祉の4本柱で子育てを支援する「種子島四葉の会」の活動も支援しています。

予防医療に努め、 病気は治すから防ぐ時代へ

健康長寿を伸ばすことは、しあわせの医療に直結します。各種健診・検査、人間ドックを用意し、病気の早期発見、早期治療を実現し、たとえ病気になっても重症化しない予防医療の推進に努めます。種子島から未来の予防医学の道筋を示すことを目指し、自治体等と連携し健康寿命を伸ばすプロジェクトも進めています。

〈種子島医療センターの健診・検診〉

健康診断	特定健診	企業健診	二次健診
検診コース			
脳卒中・動脈硬化 検診コース	肺がん 発見コース	消化器がん 発見コース	

しあわせを支える 「ワーク・ライフ・バランスの奨励」



いい医療を提供するにはスタッフ自身もしあわせでなくてはなりません。それは、仕事もプライベートも充実したワーク・ライフ・バランスが守られてこそでしょう。種子島医療センターには、医療のプロフェッショナルとして多様な経験を積める環境や福利厚生が充実。ライフステージに合わせた働き方を選べるなどワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい体制を整え、スタッフのやる気としあわせな暮らしをサポートします。

医療人としての経験を生かし、経験を積める環境が揃う

救急医療、地域医療、高齢者医療を支える急性期から在宅まで一貫した医療、そして高度な医療。これらすべてを、若手の医師と経験豊富な医師とが協調して診療にあたっています。新人もベテランも関係なく、医療人としてそれぞれのキャリアに応じた貢献ができ、さまざまな経験を積める医療環境が揃っています。

研修医、学生の実習にとって最高の訓練の場

離島医療、高齢者医療を学ぶことは、近未来の医療に役立つと私たちは考えています。特に、全人的医療という体験につながるこれらの環境は、医療人にとって最高の訓練の場となっており、医療機関から研修医、全国の学校から学生実習など、多職種のインターンシップや病院見学を積極的に受け入れています。



優れた医療人を育てる、研修、キャリアアップの支援体制

それぞれの部署に応じた研修会や勉強会を頻繁に行っています。一流講師を招いての講演や実技指導を実施するほか、認定看護師をはじめ各種専門資格の取得などキャリアアップをサポートする体制を整えています。また、日本病院会「病院総合医育成プログラム認定施設」として、病院総合医などの人材育成にも力を入れています。



サーフィン部



バスケット部

充実した サークル活動と 福利厚生

部署を越えた職員同士の交流も盛んで、サーフィン部や釣り部など、医師と医療スタッフが一緒にサークル活動を行うほか、ゴルフコンペや院外サークルも盛んです。医師用宿舎、職員宿舎、24時間の院内保育所、保養所「海の家」などの施設を備えるほか、育児休業、介護休業などの福利厚生が充実し、安心して働ける環境を整えています。



ゴルフコンペ



海の家



院内保育所

医師用宿舎・職員宿舎を完備

遠方から入職した医師や職員がすぐに暮らせるように、家具家電、Wi-Fiなどを完備した平屋戸建ての医師用宿舎、家具家電、宅配ボックス、防犯カメラを設置した職員宿舎も用意しています。



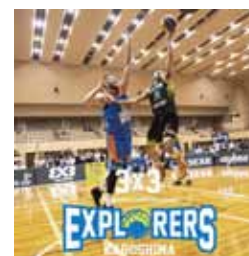
医師用宿舎



新職員宿舎(2021年完成)



新職員宿舎の室内



種子島医療センターは、プロスポーツ選手を応援しています。

鹿児島から世界を目指すスポーツ選手を応援するため、種子島出身のプロテニスプレーヤー姫野ナルさん、3×3のエキスポローズ鹿児島をはじめ、地元とゆかりの深いアスリートの活動を支援しています。プロ選手と地元の子どもの交流を通して、種子島のスポーツ発展にも貢献しています。

左/エキスポローズ(3×3) 右/姫野ナル選手(テニス)



“しあわせの島”ならではのライフスタイル



仕事も趣味も子育ても両立できる、しあわせな環境がここにはあります。

看護師(夫)・看護師(妻)/山形県出身

看護学生の時に病院見学で種子島を訪れ、一目でこの島この病院が気に入り、山形を離れて暮らすことを決めました。人々が穏やかで親切な種子島は、島外の間も暮らしやすい土地柄です。1年後には当時付き合っていた妻も移住し、看護師として働きながら3人の娘を種子島で生み、育てました。育児休業は、当院の男性職員では私が初めて取らせてもらいました。子育ての支援体制や小児科が充実しているおかげで、安心して子育てができています。当院にはサーフィン部があり、理事長がサーファー

というのもユニークなところ。サーフィンも高校の時に始めてから生活の一部になっていて、いつでも波に乗れるこの島は私にとって最高の場所。いい波が来た時には、仕事前に行くこともあります。そんな暮らしのおかげで、どんなに忙しくてもストレスがたまらず、人に優しくなれる気がします。また、ロケットの打ち上げや世界的なスポーツ大会など、他にはないイベントが多いのもここでの楽しみのひとつです。暮らして10年ですが、家族がしあわせになれる場所だと夫婦で実感しています。

種子島医療センターで働くスタッフの半分以上は、島外の出身者。毎日、忙しい業務をこなしながら充実したオフタイムを過ごし、ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送っています。自分らしい暮らしを満喫するスタッフたちに、「種子島で豊かに働き、暮らす」魅力を教えてもらいました。



やりがいを持ち、自分らしく暮らせるのは大きな魅力です。

医師/鹿児島県出身

島内唯一の眼科常勤医として年間、外来受診患者数は約12,000人、500例を超える手術を行っています。多忙ながらやりがいを持って医業に専念できるのは、患者さんの喜ぶ笑顔と、種子島だからこそのメリハリある生活が守れるおかげです。オフには趣味のバスケットで仲間たちと汗を流したり、時に医師として研鑽を積むために海外のボランティアに参加したり、自分次第で自分らしく過ごせる環境を作ることができるのは、当センターで働く魅力だと思います。

身近な人たちに貢献できる喜びに支えられています。

作業療法士/愛媛県出身

都会に憧れて進学した大阪の学校で、離島で働きたいという気持ちが芽生え、縁あって当センターに入職しました。青空の近さ、美しい海、魅力的な人々に愛着がわき、ここで結婚し3人の子供を育て16年になります。仕事と両立できるのは、育児をしやすい環境があり自分らしい暮らしが守れるおかげですが、何よりもこの島では患者さまや職員が身近な存在で、その人たちの笑顔のために作業療法士として貢献できる喜びが支えてくれています。



種子島ならではのメリハリのある生活を楽しんでいます。

看護師/大分県出身

看護師を目指した時から当センターで働きたいと決めていましたが、初めて訪れた種子島の美しさにわくわくしました。一人暮らしも初めてですが、職員寮が完備され快適に生活できる環境が整っているうえ、職員や島民の方々がとても温かく、家族のように接してくれるので寂しさも感じることなく過ごせています。オフはバレーボールや釣りをしたり、休日には高速船で鹿児島市までショッピングに出かけたり、メリハリのある生活を楽しんでいます。

医療人として、やりがいのある環境が揃っています。

理学療法士/兵庫県出身

ドラマ「Dr.コトー診療所」のイメージで当院にやって来ましたが、設備が充実していて驚きました(笑)。自分のことを誰も知らない場所で暮らせること、急性期から生活期まで島内完結の医療に携われることは大きな魅力でした。とにかく仕事と生活の場が近く、患者さんとも親しくさせてもらっていますが、治療経過がわかるので医療人としてやりがいのある環境でもあります。新鮮な魚料理などの食事も美味しく、胃袋をつかまれ、もう19年暮らしています。

種子島ってどんな島？



食料自給率100%の豊かな島

鹿児島市から南へ約115kmの海上にある種子島。南北に細長く、海拔最高282.3mのなだらかな地形のこの島は、年間の平均気温19℃と温暖な気候、豊かな漁場に恵まれることから農業や漁業が盛んです。ミネラルをたっぷり含んだ畑では米の二期作が行われ、地野菜が豊富に育ち、ナガラメ、トビウオなどの地魚、安納芋、パッションフルーツなど、1年を通して旬の味覚を楽しめます。さらには黒砂糖や焼酎といった加工品まで、ほとんどの食料は島で賄えるため、食料自給率はなんと100%を超えるほど。また、道端にはテッポウユリや極楽鳥花といった多種多様な植物が育ち、四季折々に見せてくれる風景も美しく、豊かさを実感できる島です。

アウトドアライフを満喫できる島

エメラルドグリーンの透明な海は、種子島が世界に誇る風景ですが、白浜や岩礁などの多様な海岸が混在しているのも種子島の魅力です。近年はサーフィンの聖地として全国からサーフィン愛好家が訪れることでも知られており、釣り、シュノーケリング、ダイビングなどのマリンスポーツも盛んです。海はもちろん、眺望の素晴らしい天ヶ倉山といった大自然が身近で、気軽にアウトドアライフを楽しめるのもこの島ならではの。スポーツを楽しむには最適な環境で、「ジロ・デ・種子島」、「種子島カップヨットレース」、「ジャパンプロサーフィンツアー」などのメジャーな大会も開催されています。



高い技術力を持つ島

古来より海上交通の要衝であった種子島は、鉄砲伝来の島としても有名ですが、近年はJAXA種子島宇宙センターの大型ロケット打ち上げにより、「宇宙に一番近い島」としても全国的に知られています。種子鉄が島を代表する特産品であるように、砂鉄が大量に採れることから中世より「たたら製鉄」が行われてきた技術の島であり、戦国時代、日本の歴史を変えた国産初の火縄銃製造は、鉄の精錬や鍛冶のすぐれた技術によって成功したと言われていました。歴史を振り返ると、最先端技術を誇る宇宙センターが種子島にあることは、何も不思議なことではないのです。

人に優しい移住の島

親しみやすく、穏やかな人が多いのも種子島の特徴です。実は移住の島として古くから知られ、その史実は1300年前の歴史書「日本書紀」にも記されています。以来、全国各地から移住者がここにやってきて様々な文化が受け継がれ、今もなお伝統芸能や祭事が残っているのも面白いところです。そうした歴史から多様性を受け入れる優しい風土が育まれたのでしょう。相互扶助の精神が強く、古き良き日本の原風景を残すこの島が気に入る、移住する人は多くいます。また、教育熱心な地でもあるため、移住者にも子育てがしやすく、暮らしやすい環境が整っています。

FLOOR GUIDE

〈フロアガイド〉

別館(管理棟)

2F	
1F	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問リハビリテーション事業所 ●訪問看護ステーション「野の花」 ●事務室 ●システム管理室



本館

4F	<ul style="list-style-type: none"> ●4階病棟(回復期リハビリテーション病棟) ●へき地医療センター ●会議室 ●図書室 ●コインランドリー
3F	<ul style="list-style-type: none"> ●3階西病棟(内科・眼科・小児科) ●3階東病棟(地域包括ケア病棟) ●透析室 ●両替機
2F	<ul style="list-style-type: none"> ●2階病棟(外科・整形外科・脳神経外科) ●医療福祉相談室/地域医療連携室 ●大浴場 ●高気圧酸素治療室 ●手術室 ●医局
1F	<ul style="list-style-type: none"> ●受付会計 ●待合室ロビー ●外来診察室 ●救急外来 ●リハビリテーション室 ●検査室 ●放射線室(レントゲン、CT、MRI) ●精算機 ●自動販売機
B1F	<ul style="list-style-type: none"> ●職員管理フロア ●小児リハビリ室(ひょうたん島)
B2F	<ul style="list-style-type: none"> ●レストラン「義福」 ●売店 ●自動販売機



管理棟



レストラン



コインランドリー



受付

〈病院概要〉

【病床数】204床

- 2階病棟(外科・整形外科・脳神経外科(急性期病棟))55床
- 3階西病棟(内科、小児科、眼科)59床(うち感染症病床2床)
- 3階東病棟(地域包括ケア病棟)42床
- 4階病棟(回復期リハビリテーション病棟)48病棟

【職員数】373名(2020年度現在)

【関連施設】

- 社会医療法人 義順顕彰会
- 訪問看護ステーション 野の花
- 田上診療所 ●介護老人保健施設 わらび苑
- 居宅介護支援事業所
- 訪問リハビリテーション事業所(種子島医療センター・田上診療所)

【協力病院】

医療法人純青会 せいざん病院



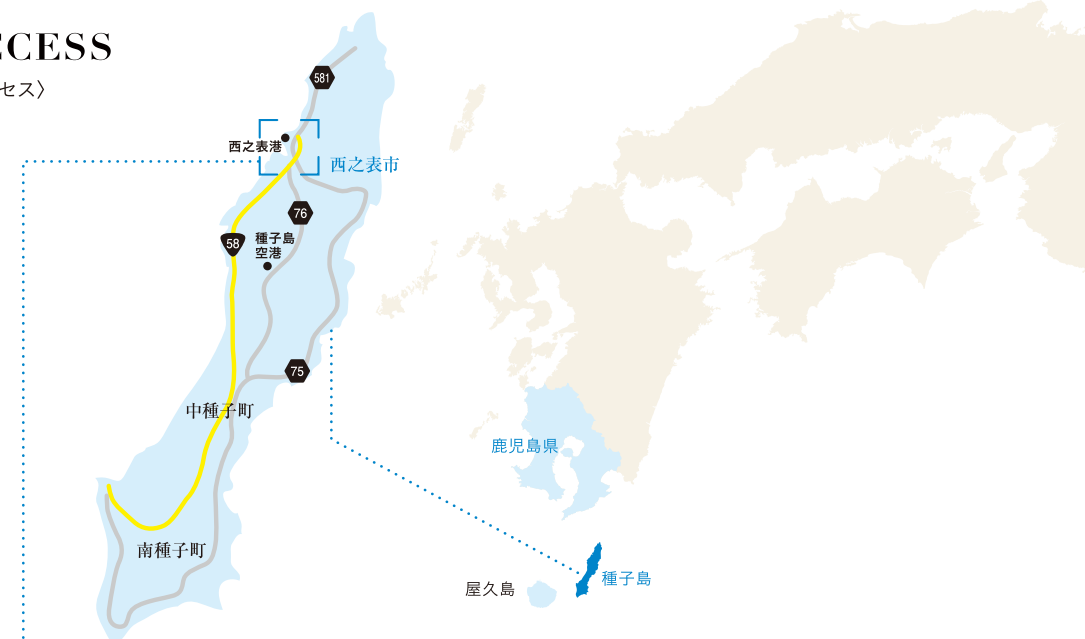
〒891-3198 鹿児島県西之表市西之表7463番地
Tel.0997-22-0960(代) Fax.0997-22-1313

<http://www.tanegashima-mc.jp>

診療時間 9:00~12:30、14:00~17:00 休診 日曜・祝日

ACCESS

〈アクセス〉



- 種子島医療センター
 - 西之表市役所
 - 種子島郵便局
 - 鹿児島銀行
 - 種子島中学校
 - 西之表市民会館
 - 西之表市立図書館
 - 西之表市立榕城小学校
 - 鉄砲館
- 〈スーパー〉
- サンビア
 - 西町サンカラ
- 〈コンビニエンスストア〉
- ルート58
- 〈ホテル〉
- 種子島あらしホテル
 - 割烹ホテル いのもと本館
 - ホテルニュー種子島
- 〈フェリー乗り場〉
- 高速船乗り場
 - 西之表港フェリーターミナル
- 〈バス停〉
- 松島バス停
 - 西之表港バス停

〈病院へのアクセス〉

飛行機の場合	高速船の場合
<ul style="list-style-type: none"> ●鹿児島空港 ↓〈飛行機で約40分〉 ●種子島空港 ↓〈車で30分〉 ●病院 	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿児島港(南埠頭) ↓〈高速船で約1時間35分〉 ●種子島港(西之表港) ↓〈車で5分〉 ●病院

〈公共バスご利用降車バス停〉

- 種子島・屋久島交通 → 空港線「松島バス停」下車、徒歩約1分
- 大和交通 → 空港線「松島バス停」下車、徒歩約1分

